

東大阪市の水道水に含まれる PFAS（有機フッ素化合物）の検出状況について

PFAS（有機フッ素化合物）の水質検査は PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）と PFOA（ペルフルオロオクタン酸）の合計濃度で行っています。

東大阪市の水道水の PFOS 及び PFOA の合計濃度は、国が示す暫定目標値（50ng/L）を大きく下回っており、引き続き安心して水道水をご利用いただけます。今後もみなさんが安心できる水道水をお届けできるように水質管理に努めてまいります。

検出状況は下の表 1 をご覧ください。また、令和 6 年度の検出状況についても、逐次更新をいたします。

表 1 PFOS 及び PFOA の検出状況

単位：ng/L

検査の地点			令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
東大阪市独自の水道水 (水源：生駒山の湧水)	石切低区浄水場	湧水(※1)	14	11	13	12
		ろ過水	15	13	13	12
		末端の水道水	11	8	10	11
	石切高区浄水場	湧水(※2)	10	8	9	10
		ろ過水	11	8	10	9
		末端の水道水	11	8	10	12
大阪広域水道企業団の水道水 (水源：淀川)	水走配水場	末端の水道水	9	7	9	9
	上小阪配水場	末端の水道水	9	12	10	12
	菱屋西配水場	末端の水道水	14	13	12	12
	池島配水場	末端の水道水	10	8	8	10
	日下中区配水池	末端の水道水	7	8	6	9
大阪市の水道水 (水源：淀川)	大阪市異配水場	末端の水道水	11	10	12	11
国が示す暫定目標値			50			
※1 近鉄けいはんな線のトンネル湧水						
※2 近鉄奈良線のトンネル湧水						

令和 6 年（2024 年）10 月末時点

PFAS とは

PFAS（per- and polyfluoroalkyl substances の略）はペルフルオロアルキル化合物とポリフルオロアルキル化合物の総称であり、主に炭素とフッ素から成る有機化合物です。

PFAS には数多くの種類が存在しますが、中でも PFOS と PFOA が代表的であり、水や油をはじく性質があるため、フライパンの表面加工や撥水剤、消火剤など幅広い分野で用いられていました。これらの物質は熱、薬品、自然環境の中でも分解されにくく、体内に蓄積されやすいため、現在、国内外で使用や製造は禁止されています。

暫定目標値の 50 ng/L とは

体重 50 キログラムの人が 1 日に飲んで体に取り入れるべき量とされる 2 リットルの水を一生涯毎日飲み続けても健康に影響がない数値です。また、「ng/L」は「水 1 リットルの中に 1 ナノグラム（10 億分の 1 グラム）の物質が含まれる（※）」ことを意味します。

（※）京セラドーム大阪(120 万 m³)をすべて水で満たした時、その水の中に 1.2 g の物質が含まれることに相当します。

水道水の水源は

東大阪市の水道水は大阪府北部を流れる淀川と市東部の奈良県とまたがる生駒山の湧水を水源に利用しています。

市内へ届けられる水道水の 99%は淀川を水源とする大阪広域水道企業団と大阪市水道局の浄水を受水し、配水しています。なお、残りの 1 %は生駒山の湧水（近鉄けいはんな線の生駒トンネル湧水、近鉄奈良線の新生駒トンネル湧水）を水源とする浄水を配水しています。